

佐陀川開削の 清原太兵衛顕彰出版記念事業

漫画・児童文学・小説

記録集

I. 「清原太兵衛シンポジウム」 平成10年1月18日(日)

- ・ 記念講演「清原太兵衛の時代」

藤岡 大拙（島根県立女子短期大学学長）

- ・ シンポジウム

コーディネーター

パネリスト

//

//

//

//

//

藤岡 大拙（島根県立女子短期大学学長）

長野 忠（山陰中央新報社論説主幹）

小室孝太郎（漫画「治水の偉人伝」作者）

村尾 靖子（児童文学「川を作った人」作者）

寺井 敏夫（小説「治水の偉人」作者）

瀧蔵 健一（松江市古江公民館長）

朝山 芳圀（清原太兵衛顕彰会理事

・ 佐太神社宮司）

II. 「読書感想文」

・ 鹿島町立恵曇小学校・佐太小学校・東小学校、鹿島中学校

1998

はじめに

湖岸から望む宍道湖の夕景は、幻想的な雰囲気をただよわせて、絵のように美しい。訪れる旅人たちは、出雲の国の原風景に出会い、思わず感嘆の声を発するのである。景色ばかりではない。宍道湖は「宍道湖七珍」でも知られるように、味覚の宝庫である。だが、今はおだやかに水をたたえる湖も、かつて寛永年間（江戸初期）の大洪水で、出雲の大河「斐伊川」が流れを変えてから氾濫を繰り返すようになり、沿岸の村や町を洪水の渦で巻き込んだ歴史をもっている。

車で松江温泉を西に湖岸線を走ると、やがて浜佐田の新茶屋前橋に差しかかる。北に真っ直ぐに伸びている川がある。すぐそれが人工のものであることがわかる。宍道湖から日本海（恵曇）に通じた「佐陀川」、「清原太兵衛」が心血を注いで開削したものである。この開削によって、積年の水渦を免れ、鹿島、松江をはじめ沿岸の諸地域の産業経済文化が発展してきた。しかし、この治績は、とかく忘れられ勝ちであった。

鹿島町は、平成八年に合併四十周年の記念すべき年を迎えられ、記念事業として『清原太兵衛翁の高い志』を顕彰することによって、今後の発展の道筋を学び未来に生かすことを願って顕彰出版を企画された。

この企画にあたって、『郷土の人々の環境と生活のために生涯を捧げた偉大な先人にスポットを当てて現代に甦らせ、その足跡をたどることで未来への道筋を発見する。』一村一志運動の提唱者小松昭夫氏が主宰するHNS（人間・自然・科学）研究所に委託され、漫画・児童文学・小説の三部作として出版された。

小室孝太郎氏（漫画）、村尾靖子氏（児童文学）の両作家に執筆が依頼された。また、小説は、懸賞小説として公募したところ、現地見学会など開催する中で、北は北海道、南は九州の各地から関心を寄せられた。応募作品の中から、寺井敏夫氏の作品が最優秀賞に輝き出版の運びになった。

その後、清原太兵衛顕彰会では、「清原太兵衛シンポジウム」を開催され、広く太兵衛翁の治績の顕彰と偉業の継承に努められた。その一環として小中学生の読書感想文を募集されたところ、三三九編の応募があり一部をここに収録した。

今、小中学生の問題がクローズアップされている。「さめている」「きれている」「表情がない」など、さまざまに言葉で指摘され、「心の教育」が叫ばれながら問題は深刻化している。しかし、この子供たちの感想文を読み、「素直に

清原太兵衛 シンポジウム



基調講演 藤岡大拙島根女子短大学長



読書感想文表彰式



シンポジウムパネリスト



清原太兵衛出版記念パーティー



清原太兵衛出版記念パーティー



常福寺にて

